



二葉幼稚園

園のたより

2023 年



9月の聖句

ひとは パンだけで 生きるものではない

ルカ4章4節

9月のさんびか

やさしいめが

こどもさんびか改訂版114



おもしろい

夏休み、京都のイベントでポーランドの学生達と交流しました。彼らは「日本語勉強中」と言い、自国のお城の写真を見せ、感動する私に「姫路しも綺麗」と言い、偶然、私は姫路城に行ったばかりだったので意気投合。彼らとはポーランド語「チェクイ(ありがとう)」を覚えてもらい別れました。

姫路ではお城の美しさもさることながら、絵本「ぞうのエルマー」原画展を鑑賞。原画は温かく作者デビット・マッキー氏の魅力に脱帽。「いくらあげても全然減らないものってあるんだよ。たとえばしあわせとかやさしさか・・・」とエルマー。絵本「せかいでいちばんよい国」に入れられたメッセージや「自分自身であってほしい。違いや多様性を受け入れて」という作者の願い・・・。新たな出会いはその人や物が生まれた背景、国や文化に興味をもたらします。それも平和への一歩

7月、4年ぶりに園での宿泊保育を実施。テーマは世界旅行。1学期をかけた様々な国や国旗等に興味関心を深め、パスポートを作りご家族でよ飛ぶ紙飛行機を作り気持ちを高め臨みました。当日、開会礼拝では世界～平和を願い聖句「平和を作り出す人たちは幸いである」を基に話をしました。新約聖書を出すと君が「あ！それ持ってる」と言い、「緒だね」と返して話始めました。

「今から5年前のこと。リリーンと電話が鳴りました。」今から5年前。リリーンと電話が鳴った」と君がつぶさに繰り返してきたのです。君に響いていることにも感動・・・。実は5年前、ベトナムの5歳児の入園希望がありました。教職員で話し合い、年長組に意見を聞いてみることに・・・。

「君があのな～、言葉でお話出来なかつたら心でお話したらいいやん」と。その一言に皆の顔がパツと輝き、言葉の不安は吹っ飛び、ベトナムの？君入園。身体全て使い「からた語」で話す？君の不安や怒りにも寄り添い、子ども達は彼と一緒に毎日よ笑い、豊かな時を過ごしたのです。

世界各国、言語や文化が違っても心でお話」することで、くつと平和は身近になる・・・。

この実話は現年長児にも生き生きと響いたようでした。その後、小さな園を舞台に盛り沢山の世界旅行を楽しんだ子ども達。眠る直前「俺達愛されてんな～」と言った君の呟きは皆同感だったことでしょう。前は不安で不安で「いきたくない！」と叫んでいた子どももちらほら。皆で過ごした後は

「あ～お泊り保育、めっちゃめっちゃ面白かった～！もう一回したい～毎日お泊り保育がいい！」と。コロナ禍で育ち、多くの葛藤と一緒に乗り越えてきた子ども達。その子ども達を愛し続け一致団結、自らも全力で楽しむ先生達、友達、カメラマン、給食に携わる人達やご家庭で子ども達の無事を祈るご家族の思いに支えられ、神様に祝され、子ども達の特別な「おもしろい」は実現したのです。

「おもしろい」には受動的なものや能動的なもの、共感的なものなど色々ありますね。

8月には子育て支援で、各々がしたいように氷絵具で感触を味わい、絵具を霧吹きに入れ色々な素材にスプレーして色付けし、心ゆくまで楽しみました。今回の造形遊びは「作品を創る」を目的とせず、0歳～小学2年生～保護者が様々な素材と出会い、2歳児も黙々と向き合いました。見事に集中して遊びこんでいた年長君「おもしろいわ～、めっちゃ面白い」とボソッと心の声が漏れました。

「～したらどうなる？」と思いのままに没頭する、研究者のような各々の姿が印象的でした。身近に、世界に心痛み、疑問も多々苦悩する時代。平和・平安への祈りを見失わず、深呼吸。時には童心に戻って「おもしろい」を味わい、改めての自分、新たな自分、新たな出会いを！【園長】